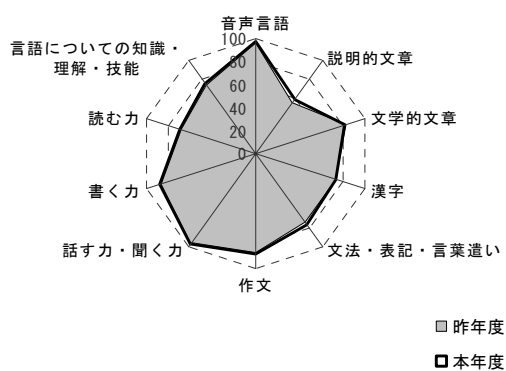


3年 国語

宇都宮市立瑞穂野中学校

1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率（平成19年度と18年度の状況）

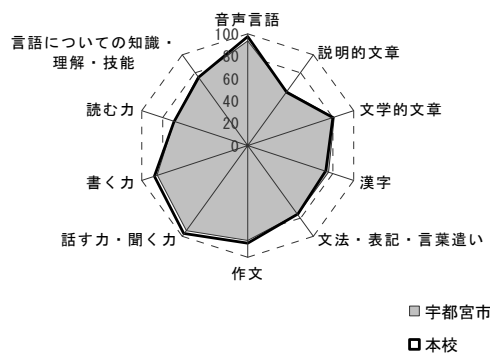


■平均正答率

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	音声言語	97.3	95.6
	説明的文章	58.8	54.4
	文学的文章	80.5	82.1
	漢字	74.0	73.6
	文法・表記・言葉遣い	76.0	74.0
	作文	86.9	85.7
観点別	話す力・聞く力	97.3	95.6
	書く力	86.9	85.7
	読む力	69.6	68.2
	言語についての知識・理解・技能	74.7	73.7

受検人数	本年度	昨年度
	82人	96人

(2) 領域別・観点別平均正答率 (宇都宮市と本校の状況)



■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	音声言語	93.7	97.3
	説明的文章	59.7	58.8
	文学的文章	81.4	80.5
	漢字	76.5	74.0
	文法・表記・言葉遣い	76.7	76.0
	作文	84.7	86.9
観点別	話す力・聞く力	93.7	97.3
	書く力	84.7	86.9
	読む力	70.6	69.6
	言語についての知識・理解・技能	76.5	74.7

受検人数	宇都宮市	本校
	4003 人	82 人

平均正答率の状況から、本校としては、昨年度から比べると全体的に伸びているが、市と比べると下回っている領域があるので、今後特に「漢字」の領域と「言語についての知識・理解・技能」の観点において指導の工夫・改善を図っていきます。

2 指導の工夫・改善

領 域	平成19年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	平均正答率は90%を大きく越えており、昨年度同様に優れた結果となっている。	出題内容別では「事実と意見の関係の聞き取り」「話し手の立場の聞き取り」で87%台であり、観点を決めて聞く学習が必要と考える。
説明的文章	60%を下回る正答率である。昨年度をわずかに上回るが、宇都宮市全体の59.7%を下回っている。	「文脈に即した内容の理解」「段落の趣旨」の問いに対する正答率は30%を下回っており、文章をまとまりとしてとらえさせる学習をさせたい。
文学的文章	正答率は昨年度よりやや下降した。出題内容別の正答率も5問中4問は88%以上である。「登場人物の心情」の問いは極端に低い正答率であるが、宇都宮市全体と比較すると1%下回っているだけである。	「登場人物の心情」に関する設問以外は高い正答率であるため、心情描写の部分を中心として、登場人物の言動など心情にかかわる叙述に視点を当ててとらえる学習が必要である。
漢字	80%を下回る正答率である。漢字の読みに関する設問では、97%以上の正答率であるが、漢字の書き取りは正答率が約50%と極端に低い。	漢字の書き取り練習が不足している。授業の中で新出漢字の学習を十分に行うことが必要である。意味調べや熟語集め、短文作りなどの学習活動も有効と考える。
文法・表記・言葉遣い	「同音異義語の識別」や「敬語の使い方」に関する設問では84%を越える正答率であるが、「用言の活用」に関する設問では50%を下回る。	文法に関する学習に苦手意識を抱いている生徒が多く、「用言」のみならず、文法全般において、主体的に学習できるような工夫が必要である。学習事項を整理させ多くの練習問題に取り組ませたい。
作文	今年変更された一問を含めても、昨年度より約1%上回る正答率である。	物語づくりなどには意欲を示すが漢字や語句の利用について十分ではなく、完成度を高めるように他の領域と関連させながら学習さ

		せたい。
--	--	------